



赤いレーザー光が、実験

用エンジンに取り付けられた測定窓を通じて内部に差し込む。激しく燃える混合気内で、レーザーは微粒子に反射して流れの速さや向きを信号として記録する。レーザー流速計によるエンジン内の計測は、シミュレーションが発達した今も開発を裏方で支える重要な技術だ。

燃焼中のエンジンのレーザー計測に1976年に世界で初めて成功した特任教授の小保方富夫(66)は、93年から昨年まで、工学部のエネルギーシステム工学第2研究室の教授を務めた。同研究室の通称は「熱研」。あまり知られていないが、日本の自動車産業の歴史に

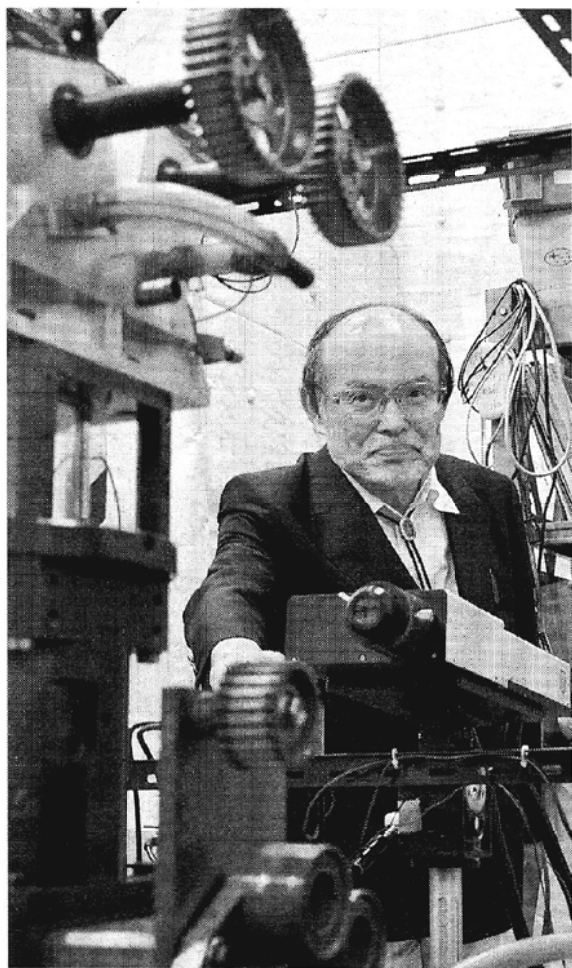
欠くことのできない研究者 夫(82)は、初代卒業生だ。夫の名を連ねた名門だ。初代教授の浅沼強(92)は、吸排気のタイミングを調節してエンジン効率を上げる「吸排気管効果」を説明、英国マン島オートバイレースで「大学教員としては裏ルー」のホンダ勢活躍の一因となった。また、低公害で世界を驚かせたホンダCVCCエンジンを開発した八木静

夫(82)は、初代卒業生だ。夫の名を連ねた名門だ。初代教授の浅沼強(92)は、吸排気のタイミングを調節してエンジン効率を上げる「吸排気管効果」を説明、英国マン島オートバイレースで「大学教員としては裏ルー」のホンダ勢活躍の一因となった。また、低公害で世界を驚かせたホンダCVCCエンジンを開発した八木静

夫(82)は、初代卒業生だ。夫の名を連ねた名門だ。初代教授の浅沼強(92)は、吸排気のタイミングを調節してエンジン効率を上げる「吸排気管効果」を説明、英国マン島オートバイレースで「大学教員としては裏ルー」のホンダ勢活躍の一因となった。また、低公害で世界を驚かせたホンダCVCCエンジンを開発した八木静

夫(82)は、初代卒業生だ。夫の名を連ねた名門だ。初代教授の浅沼強(92)は、吸排気のタイミングを調節してエンジン効率を上げる「吸排気管効果」を説明、英国マン島オートバイレースで「大学教員としては裏ルー」のホンダ勢活躍の一因となった。また、低公害で世界を驚かせたホンダCVCCエンジンを開発した八木静

熱いエンジン屋たち



レーザー計測は「辛抱9割。残りが技術と幸運」と話す小保方特任教授(6月11日)

競って見学に訪れた。78年に群大に戻った後も小保方は、各メーカーとの共同研究で開発の基礎を支え、85年には、ヤマハと行った小型エンジンの測定と解析で、日本機械学会論文賞を受賞した。

自動車に高度な環境性能が求められ、燃料電池車などの開発に各社がしのぎを削る昨今だが、小保方は「まだエンジンに力がある」と、言葉に力をこめる。

(敬称略)
(清岡央)